

「メセナ アワード 2007」受賞活動の紹介

【メセナ大賞部門】

- メセナ大賞 **(株)資生堂**
資生堂ギャラリーの運営
- 地域文化振興賞 **北野建設(株)**
信州に根ざした「北野美術館」および「北野文芸座」等の芸術文化活動
- 企画運営賞 **(財)東京オペラシティ文化財団**
東京オペラシティにおける音楽・美術事業の企画運営
- バックステージ支援賞 **日本生命保険(相) / (財)ニッセイ文化振興財団**
舞台芸術を表と裏から支える、総合的な支援活動
- 体感音響賞 **パイオニア(株)**
「身体で聴こう音楽会」の開催および企画運営
- 俳壇ネットワーク賞 **マルホ(株)**
全国俳誌ダイジェスト『俳壇抄』の発行

【文化庁長官賞部門】

- 文化庁長官賞 **(財)アサヒビール芸術文化財団**
アサヒビール大山崎山荘美術館の総合的な芸術振興活動

【本件に関するお問い合わせ先】 社団法人企業メセナ協議会 メセナ アワード担当：荻原・戸沢
TEL: 03-3213-3397 FAX: 03-3215-6222 URL: <http://www.mecenat.or.jp>
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-2 第一鉄鋼ビル 1階

【メセナ大賞】

(株)資生堂
資生堂ギャラリーの運営

企業プロフィール

所在地: 東京都中央区

業種: 化学

設立年: 1872年

資本金: 645億円

従業員数: 約 3,344人

www.shiseido.co.jp/social/html/

資生堂ギャラリーは、初代社長の福原信三により1919(大正8)年に開設された、現存する日本最古の画廊である。

開廊以来、多くの美術家に作品発表の場として貸与する一方で、逸早く自主企画展にも取り組んできた。1947年から続く「椿会展」は、一定期間同じメンバーで開催するグループ展で、川島理一郎らが参加した「第一次椿会」に始まり、今年には現代美術の中堅作家からなる「第六次椿会」が発足した。また、75年から95年まで行われた「現代工芸展」では、参加作家のうち半数以上が人間国宝となっている。資生堂では、これらの展覧会に出品された新作を購入することで作家の創作活動を支えており、78年には、コレクションを常設展示すべく静岡県掛川市に資生堂アートハウスが開設されている。

90年以降は、同時代のグローバルな美術の動向に注目し、欧米やアジアのアーティストを紹介する企画展を実施。2001年のビル改装で地階に移転してからも、天井高5mを超える空間を活かした多様な現代美術展を続けてきた。さらに企画展で取り上げたアーティストについては、その後も継続的なサポートを行っている。そして06年からは、「新進美術家の登竜門」というギャラリー創設の原点に立ち戻り、公募展「shiseido art egg」をスタートさせた。

88年間にわたり数多の美術家を世に送り出した功績は大きく、今日もなお、新たな時代の表現を求めている点が高く評価された。

【地域文化振興賞】

北野建設(株)

信州に根ざした「北野美術館」および「北野文芸座」等の芸術文化活動

企業プロフィール

所在地:長野県長野市

業種:建設

設立年:1946年

資本金:91億1,649万円

従業員数:549人

www.kitano.co.jp

【企画運営賞】

(財)東京オペラシティ文化財団

東京オペラシティにおける
音楽・美術事業の企画運営

*2007年現在は以下5社

日本生命保険(相)、NTT都市開発(株)、
小田急電鉄(株)、ジャパンリアルエステイト
投資法人、相互物産(株)

財団プロフィール

所在地:東京都新宿区

業種:財団

設立年:1995年

正味財産:20億7,000万円

職員数:27人

www.operacity.jp

【バックステージ支援賞】

日本生命保険(相)

(財)ニッセイ文化振興財団

舞台芸術を表と裏から支える、
総合的な支援活動

企業/財団プロフィール

所在地:東京都千代田区

業種:保険/財団

設立年:1889年/1973年

資本金/基本財産:

9,000億円/10億130万円

従業員/職員数:66,437人/37人

www.nissay.co.jp

www.nissaytheatre.or.jp

「建築は創造であり、芸術である」とのポリシーを掲げる北野建設は、1968年、長野市郊外に「北野美術館」を設立した。北野家の父子二代にわたる長年のコレクションをもとに、日本画・洋画・彫刻・書跡・工芸品・武具類等約600点を所蔵しており、季節にあわせて年4回の常設展を開催している。

92年には、本社西館建設に伴い「北野建設彫刻ギャラリー」を併設。ルノワールやグレコなど泰西の名作のほか、県出身の彫刻家を含む邦人作家の秀作を設置して広く公開している。

さらに94年には、善光寺の表参道沿いに「北野文芸座」を開設。意匠を凝らした歌舞伎座風の建物で、385席の小規模な劇場ながら、本格的な伝統芸能上演の場をつくりだした。開設以来、歌舞伎や文楽等の自主企画を実施し、年間約20公演を手掛けている。

2003年には、文芸座の並びに、北野美術館の分館として「北野カルチュラルセンター」をオープン。斬新な外観と充実した設備の多目的スペースを有し、さまざまな展示や演奏会、講座など、地域住民が集う文化発信拠点となっている。善光寺表参道に新たな魅力をもたらす存在として、より一層の活動展開が期待されている。

新宿・初台の「東京オペラシティ」は、芸術文化、ビジネス、アメニティを融合した街区として1996年に誕生した。新国立劇場との街区開発プロジェクトで、民間地権者6社(*)により文化施設の建設が検討され、運営団体として財団を設立。97年にはコンサートホールとリサイタルホールが、99年にはアートギャラリーが開設された。

初代芸術監督の故・武満徹の遺志を継ぎ、コンサートホールでは作曲コンクール「武満徹作曲賞」を実施。この本選演奏会を含む音楽フェスティバル「コンポージウム」を毎年5月に開催している。またリサイタルホールでは、バッハと現代音楽を軸にプログラムを構成する「B・C」を企画。年10回のシリーズで、多彩な演奏家が登場する。

一方のアートギャラリーは、年4回の自主企画展と常設展示、若手作家の育成を目的とする「プロジェクトN」を行っている。企画展では現代美術や建築など国内外の多様な表現活動を紹介。常設展は、地権者の寺田小太郎氏より寄贈された近現代美術のコレクション約2,700点を公開している。

他にも、音楽・美術の両分野で、子ども達からシニアまでを対象としたプログラムを手掛ける。都市に賑わいをもたらす文化拠点として、これからも幅広い活動を展開してほしい。

日生劇場は1963年、日本生命の創業70周年を記念して開設された。国内外のオペラや演劇、ミュージカル等を上演してきたが、なかでも64年から続く「ニッセイ名作劇場」は、劇団四季によるミュージカルに小学校6年生を無料招待するもので、全国11都市で巡回している。これまでの43年間で招待した児童は、665万人を超える。

一方、「NISSAY OPERA」シリーズでは、実力派のキャスト・スタッフによるオペラを上演し、79年からは「青少年のためのオペラ教室」として中学・高校生を廉価な料金で招き、解説を交えた上演も行っている。さらに、同公演の舞台セットを用いた「舞台フォーラム」を93年から実施。演出家や技術者が現場を案内するとあって、学生などが多数参加する。また同年、「国際ファミリーフェスティバル」もスタート。バレエや音楽ドラマなどバラエティに富んだ内容で、夏休みに親子で舞台を親しむ機会として好評を博している。

95年には、「ニッセイ・バックステージ賞」を創設。長年にわたり舞台を支えてきた「裏方さん」にスポットをあて、その功績を称えるものだ。受賞者には賞金とともに70歳からの終身年金を支給するなど、本業を活かした貴重な支援を行っている。今回は特に、舞台を支える人々に注目した独自の取り組みが評価された。

【体感音響賞】
パイオニア(株)
「身体で聴こう音楽会」の開催
および企画運営

企業プロフィール
所在地:東京都目黒区
業種:電機機器(音響・映像)
設立年:1947年
資本金:490億4,850万円
従業員数:3万7,622人(連結ベース)
www.pioneer.co.jp/citizen/karadadekikou/

椅子から音の振動が伝わることで音楽の臨場感を楽しめる「体感音響システム」。このシステムを活かし、聴覚障害者にも音楽を楽しんでもらうのが、1992年にスタートした「身体で聴こう音楽会」である。

本社ロビーで月一回開かれる定期コンサートは、プロの演奏家から社内コーラスグループまで登場する多彩な内容だ。毎回100名ほどのお客が集まるロビーには、普通の椅子とともに「体感音響システム」の椅子が並ぶ。字幕や手話通訳も交えたコンサートの運営は、専任の事務局のほか、社員とその家族のボランティアによるものだ。

当初は東京近辺の聴覚障害者団体等に呼びかけていたが、徐々に周知が進み、外部からも協力要請が来るようになった。なかでも、日本フィルハーモニー交響楽団等の主催コンサートでは、ホールに数十席分のシステムを設置して聴覚障害の方々を招いている。

さらに、ろう学校での演奏会や、聴覚障害者を対象とした音楽イベントにも機材を貸し出す。先ごろ聴覚障害者のニーズを取り入れた運搬も容易な改良型を新たに製作し、現在は合計65台のシステムをフル活用している。

パイオニアの企業理念「より多くの人と、感動を」を具現化する活動として、今後も、音楽を楽しむ人の輪を広げていくことだろう。

【俳壇ネットワーク賞】
マルホ(株)
全国俳誌ダイジェスト
「俳壇抄」の発行

企業プロフィール
所在地:大阪府大阪市
業種:医薬品
設立年:1949年
資本金:3億8,253万6,000円
従業員数:874人
www.maruho.co.jp

医療用医薬品の研究開発・製造・販売に携わるマルホは、30年以上も前から、俳句のイベントへの協賛や句集の発行等を続けてきた。取締役名誉会長の高木二郎氏が俳誌『青門』を主宰し、「青二郎」の俳号で活動しているという経緯があるためだが、俳壇支援活動はマルホの文化事業として定着している。

1994年には、全国の俳句雑誌(俳誌)をダイジェスト版として一冊にまとめた『俳壇抄』を創刊。全国に約900件ある俳誌の作風や、現在の俳句の動向がわかり、俳壇の発展につながればと構想されたものだ。5月・11月の年2回発行、全国から550件ほどの俳誌が投稿しており、1誌あたり1頁、作品12句とともに各誌の近況や選評などを掲載する。毎号7,500部を発行し、各俳誌に贈呈する他、全国の俳句団体や新聞社、図書館や大学にも寄贈している。また、同社ホームページでも俳誌名が検索できるようにしている。

さらに『俳壇抄』では研究論文を掲載したり、傾向の異なる団体の座談会を企画するなど、俳壇の流派や結社を超えた交流の場を提供している。同好者からの支持だけでなく、俳句史や俳壇史の研究に欠かせないと高評である。

【文化庁長官賞】
(財)アサヒビール芸術文化財団
アサヒビール大山崎山荘美術館の
総合的な芸術振興活動

財団プロフィール
所在地:東京都墨田区/京都府乙訓郡
業種:財団
設立年:1989年
正味財産:5億5,000万円
職員数:8人
www.asahibeer-oyamazaki.com

京都の大山崎町にあるアサヒビール大山崎山荘美術館は、1996年に開館した。アサヒビールと縁の深い実業家・加賀正太郎により大正から昭和初期に建てられた山荘が取り壊されそうになったところを、美術館として再活用したものである。

アサヒビール初代社長の山本為三郎は民芸運動の熱心な支援者で、バーナード・リーチや濱田庄司らの陶磁器類を収集していた。あわせて近代美術作品を所有していた同社では、これら作品を美術館にて公開。特にモネの『睡蓮』はじめ西洋美術作品の展示にあたっては、安藤忠雄設計による新館を併設している。

また、コレクションの常設展だけでなく、現代美術作家が美術館の建物や周辺環境、所蔵品等からヒントを得て新作を制作する企画展を開催。これら展覧会におけるワークショップや、双方向型のギャラリートゥアーなど多彩な参加型プログラムも行ってきた。

さらに、神戸大学や京都造形芸術大学との連携により、地域を巻き込んだアートプロジェクトを実現しており、アート・マネジメントを志す学生に実践の場を提供している。他にも、地元ボランティアグループによるツアーなど地域と密接な活動を展開。今後も大学との協働を進め、地域との多面的な接点ある美術館活動を続けていく。